ことぶき新報

第 310 号 2019 年　4 月 10 日発行

出雲市塩冶有原町 1-50
社会福祉法人ことぶき福祉会『ことぶき園』
　発行責任者：山根広美
Tel　：（0853）31 - 9900
Fax：（0853）31 - 9901

【外国人労働者受け入れ政策について思うこと】

先日新しい年号である「令和」が発表され「平成」も残りわずかとなりました。最近はテレビなどで平成や令和のことがよく取り上げられ、新しい年号の下、良くしていこう。といった気運もみられます。介護の世界においても良し悪しは置くとして、変化を遂げる春となりそうです。国会にて議論が続けられていた外国人労働者受け入れ政策の見直し法案が可決されました。この春より単純労働分野にも労働者として外国人を受け入れるというもので、介護を含む一四業種が受け入れ対象となりました。はたして介護の分野が単純労働なのか。その点においては疑問しかありません。

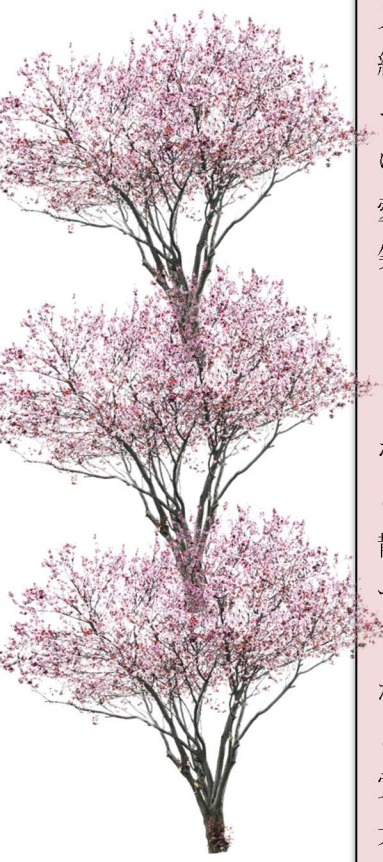
私の主観とはなりますが外国人だからダメだ。介護はできない。と思っているわけではありません。日本人であろうがおかしな人がいることも事実で、外国人であろうとよい人はいるはずだからです。ただ人と接する仕事である以上、半端な気持ちでできるものではなく決して単純で作業的に出来うるものではないと断言したいと思います。

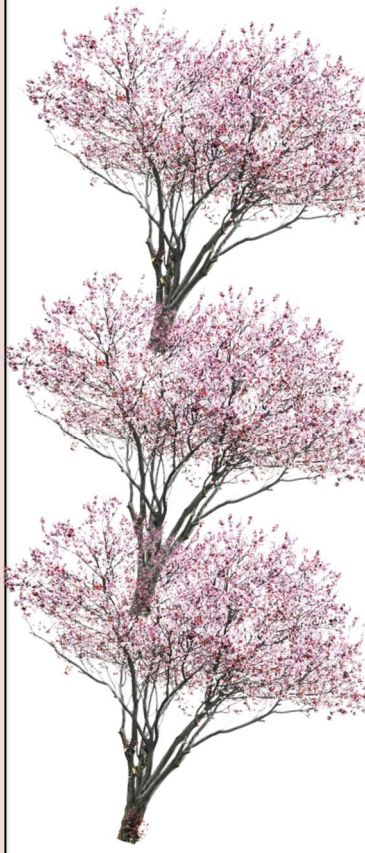
先日ネットニュースにて実際に日本の介護施設で働いていた外国の方のＳＮＳ上での発言が話題になっている。といった記事を見る機会がありました。その内容は「毎日毎日お年寄りさんに怒鳴られてばかり。」「辛い仕事ばかりさせ日本人は楽ばかりする」というものでした。お年寄りさんが怒鳴るという行為をしてしまうには何かしらの理由があると思っています。例えば、言い方や態度が悪い、理解してもらえない等があるかと思います。差別的ではなく、生まれも育ちも違う、国柄、文化も違う。そういった状況をしっかり認識し知識として有した状態で関わることが出来なければ、毎日怒鳴られてばかりとなるのも当然であり、寧ろそのお年寄りさんが不便であったと思わざるを得ないな。というのが素直な感想でした。

現在日本の介護施設の約六六％が人手不足（人材不足はもっと深刻）であるという統計がでており、超高齢化社会に突入していく日本において二〇三五年には約七九万人に及ぶ介護労働者が不足すると言われています。国はこの不足分を補うべく外国人労働者の受け入れを緩和し介護の分野においても就業可能としたのだと思います。少子高齢化のため、この流れは仕方のない事なのかもしれません。しかし外国人労働者の受け入れができたからそれで良しとなるのではなく、日本人労働者確保のためにまだすべき事があるのではと疑問に思います。最近になり多少は改善されているのかもしれませんが、平均年収一つとっても四〇才介護士の平均年収が約三三〇万円に対し公務員の平均年収は六〇〇万円を越えています。平均年収に倍近くの差があるのです。私は重労働とは思いませんが、世間一般的には低賃金重労働というイメージをお持ちの方も多く、結果なり手がいない、すぐ離職する。といった現状がおきているのだと思います。民間企業も参入している介護の分野で、国が主体となり日本人介護人材確保のためにもっとすべきことをしていくべきだと思います。

グローバルな世界になってきている昨今の日本において人手・人材不足が強い介護の分野に外国人労働者が就労することは仕方のないことだとは思います。人手不足を理由に外国人労働者を躍起となって確保しようとする施設もあるくらいです。しかし現状の受け入れ政策では最低限の日常会話が出来ればよい程度であり、又、就労できる期間も当初は五年しかありません。人材育成がきちんとできるのか。ただ数合わせ的な扱いで外国人労働者を雇うとなると、そのしわ寄せがそこで暮らす高齢者に降りかかります。願わくばすべての高齢者が安心して暮らしていけるように全ての施設が意識し取り組んでもらいたいと。また、制度や収入面などにおいて国が高齢者と、介護に携わる全ての人を守る行動をしてほしいと願います。

日野　洸作



先日、ことぶき園では朝からお弁当を作り天神北公園にてお花見会をしました。笑庵ことぶきからも３名の利用者さんが来られ一緒にお弁当を食べられました。「たまに外で食べるのもいいね」「そっちのお弁当も美味しそうだね」と会話も弾み、食後には桜並木をゆっくり散歩されました。そこで外国の家族連れの方と出会い「可愛いね。何才だ」と立ち止まりしばらく会話が続きました。皆さん笑顔で自然な国際交流となり、見ていてとても和やかな気持ちになりました。

又、ここの所、身体の調子が思わしくなかったＩさんはいつもより食欲があり、お弁当をほとんど食べられました。この日は雲一つない穏やかな天気で、Ｉさんは空を見上げ「わー、なんて綺麗な色」と目を見開いておられました。そして車椅子でゆっくりと桜並木を散歩しました。「桜のピンクと空の青が本当にきれいだわ。心がすーっとする」と晴々とした表情で話しながら眺めておられました。日に当たり、肌で風を感じ、花や空といった自然の色を見て心を動かすことの大切さを改めて感じることができました。たとえ話すこと理解することが難しい方がいたとしても、視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚といった五感で感じることはできます。そういった五感を大切にした関わりをいつも念頭におき、一瞬一瞬が心地良い時間となるよう日々考え関わっていきたいと思います。